

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	新潟県	事業実施主体	新潟県、十日町市	地域再生計画名	農と観光ネットワーク計画
計画期間	平成 27 年度～平成 31 年度	評価責任者	新潟県十日町地域振興局農業振興部長 大橋浩、十日町市産業観光部長 渡辺正範		

	指 標		基準値		中間目標値			最終目標値		中間評価	中間目標値の実現状況に関する評価
				基準年度		年度	中間実績		基準年度		
① 地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	年間観光入込客の増加	189 千人	H25	194 千人	H29	162 千人	200 千人	H31	△	一体的な道路整備の効果及びリゾート運営の中での様々な取り組みにより、主要施設の宿泊客は着実に増加しているが、日帰り客を加算した合計の数値については、目標未達成の状況になっている。
	指標 2	えだまめ作付面積の増	47ha	H25	50ha	H29	61ha	55ha	H31	○	広域農道等の整備に伴う移動効率の向上により、大型専用機械を使った園芸産地の育成など施策効果は着実に現れており、目標値を達成できる見込みである。
② 地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1										
③ 事業の進捗状況	事業名		整備量（その他事業では取組内容）					事業の進捗状況に関する評価			
			計画	中間年度（H29）	最終実績見込み						
	特別措置を適用して行う事業	広域農道事業	1. 81km	1. 62km	1. 81km		H29 年度で約 90%の進捗となっており、計画どおり進んでいる。本路線が整備されることにより、車両通行の安全性が確保され、集出荷施設やリゾート施設へのアクセス改善、大型専用機械の導入といった整備効果が発揮されていることから、着実な農道事業の完成が望まれる。				
		市町村道事業	0. 97km	0. 00km	0. 97km		現在、工事着手に向け用地買収、物件補償が進められている。広域農道と一体的に整備されることで整備効果が発揮されることから、アクセス改善に向けて事業の推進が求められる。				
	支援措置によらない独自の取組	(1)越後妻有アートトリエンナーレ「大地の芸術祭」	十日町市と津南町全域の里山や棚田などを舞台にした世界的なアートイベントの実施			50 日間の開催期間で述べ 54 万人を越える入込客数を記録し、主要施設の宿泊客数も伸びていることから、引き続き同イベントと連携することが望まれる。					
		(2) 十日町市地域防災計画に係る震災対策	災害発生時における道路機能を確保するため、拠点施設等を有機的に結ぶ道路ネットワークの構築、代替性の高い道路を整備			災害に強い道路ネットワークの構築に取り組んでいるが、その効果を十分に発揮するため、引き続き整備を進めていく必要がある。					
		(3) 交通空白地解消事業	地域住民のニーズに応じた公共交通手段を確保			市では、予約型乗合タクシーの運行など、地域住民や観光客のニーズに応じた交通手段の確保を進めており、地域住民や観光客の要望に応える広域農道の利活用を進める必要がある。					
(4) 県営中山間地域総合整備事業「六箇地区」		生産条件の不利な中山間地域において、区画整理と農業用排水施設整備を実施			32. 4ha のほ場整備を実施しており、H29 時点で事業進捗率 65%となっている。生産条件の不利な中山間地域において、安定的な営農及び農村振興が図られており、着実な整備完了が望まれる。						
(5) 県営農地環境整備事業「当間地区」		耕作放棄地の計画的な管理と優良農地の生産性向上を図るため、一体的な整備を実施			28. 6ha のほ場整備を実施しており、H29 時点で事業進捗率 87%となっている。耕作放棄地の計画的な管理や優良農地の生産性向上が図られており、着実な整備完了が望まれる。						
④ 評価方法	地域再生計画評価委員会（構成委員：新潟大学、十日町農業協同組合、十日町商工会議所、十日町市観光協会、地区振興会）を設置し、中間目標値の実現状況に関する評価・検討を行った。										
⑤ 中間評価の公表方法	十日町市のホームページに掲載										
⑥ 計画全体の総合評価	本地域再生計画は、地方創生道整備推進交付金を活用した道路整備により、県営中山間地域総合整備事業や観光事業と連携した「農と観光のネットワーク」構築を図るもので、当該計画に沿ったかたちで農村振興や優良農地の確保などへの有効性（主要施設宿泊数の着実な増加、えだまめ作付面積中間目標値達成等）が概ね発現できている。しかし、年間観光入込客数は目標未達（中間目標値194千人に対して29年度実績162千人）であることから、引き続き道路整備を進めつつ、越後妻有アートトリエンナーレとの連携、予約型乗合タクシーの取組み強化など、ハード・ソフトの両面からの相乗効果が期待できるように観光産業や地域住民の要望に応える具体的な取組みを重ねていくことが求められる。これらの具現化のために、広域農道の利活用を一層推し進め、「農と観光のネットワーク」の拡充を図ることが望まれる。										
⑦ 今後の方針等	本地域再生計画におけるえだまめ作付面積については、中間時点では目標値を達成できている。しかし、十日町市が直面している人口減と高齢化率の上昇を勘案すると現状の維持を志向することがH31年度に向けての有効な方針であると考ええる。引き続き本地域再生計画に沿って事業を着実に推進していきたい。また、主要宿泊施設での宿泊客が増加傾向となっていることを踏まえ、更なる観光・交流人口の増を図るために日帰り客を中心に観光入込客の底上げを進める。具体的には、越後妻有アートトリエンナーレ「ツールド妻有」といった道路関連のツーリングイベント等との連携、交通空白地解消事業の取組み強化、周辺施設（サッカー場・アリーナ・スキー場）を活用したスポーツ誘致活動等、ソフト対策も一層強化していきたいと考えている。さらには、当市の魅力でもある“雪”について、世界的なアドバンテージであることを再認識したうえで、これを最大限に生かした夢のある取り組みが今後の方針の一つとして重要となる。										